

11 整形外科研修プログラム

プログラム責任者:土屋 篤志

1. 到達目標

A) 一般目標

将来どの科を選択したとしても全人的な医療ができる医師となるために、運動器における外傷、障害、変性疾患の診断と治療に必要な基礎知識・技術を身に着けることを目標とする。

B) 行動目標

(1) 診療姿勢

- 1.患者及び診療スタッフと良好なコミュニケーションを取ることができる。
- 2.診療録を適切に作成できる。

(2) 基本的手技

- 1.主な身体計測 (ROM、MMT、四肢長、四肢周囲径) ができる。
- 2.骨折、脱臼の診断と応急処置ができる。
- 3.神経・血管・筋腱の損傷を診断できる。
- 4.整形外科領域の主な薬剤を使用することができる。
- 5.局所麻酔法を実施できる。
- 6.無菌的処置を行うことができる。
- 7.手術に助手として参加できる。
- 8.皮膚縫合法を実施できる。
- 9.頻度の高い症状である腰痛、関節痛、歩行障害、四肢しびれの病態が理解できる。

(3) 基本的な臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

- 1.単純X線検査
- 2.X線CT検査
- 3.MRI 検査

2. 方略(On the job training(OJT))

- (1) 研修は、整形外科外来、手術室、整形外科病棟(3-2 病棟)で行う。
- (2) 研修の指導に当たるのは、当科の医師スタッフ全員である。
- (3) 研修医は主治医の指導のもとで、受け持った患者の副主治医として診療に携わる。
- (4) 外来における研修
 - 1.新患外来で予診を行い、その結果をカルテに記載する。その後の指導者の診断と治療を経験する。
 - 2.スポーツ・肩・膝の各専門外来で診療を見学し、診察法や治療方針の立て方を学ぶ。
- (5) 手術室における研修
 - 1.脊椎麻酔や局所麻酔を経験する。指導者の指導のもと実施する。

2.手術において透視下骨折整復、ガウンテクニック、皮膚消毒、皮切、ドリリングや螺子挿入などの手術手技、術後の患部の保護を経験する。

(6) 病棟における研修

- 1.症例検討会に参加し、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- 2.受け持ち患者の診察は毎日行い、所見をカルテに記載する。
- 3.主治医とともに、受け持ち患者の検査、治療計画の立案をする。
- 4.病棟回診に同伴し、創処置や包帯法、病巣の観察や診察の仕方を習得する。
- 5.受け持ち患者が退院した際には退院サマリーを作成する。

3. 評価

- (1) 研修医は、EPOC2 の研修医評価表で、臨床研修到達目標項目の自己評価による研修達成度評価を行い、ローテート終了時に自己評価記載を完了する。指導医は、同評価表の研修医自己評価を確認し、当該ローテート研修の指導医評価記載を完了する。指導医による評価結果は EPOC2 上でフィードバックされる。
- (2) 臨床研修指導医は、EPOC2 上で診療・手技・患者マネジメントについて適時評価を行う。
- (3) 臨床研修指導医または上級医は、本カリキュラムの行動目標のすべてに対する観察を行い、ローテート面談を適宜実施し、形成的評価をフィードバック面談シートに記録する。ローテート終了時の面談では、適宜看護師などの指導者も入り、総合的評価のフィードバックを行い、フィードバック面談シートに記録する。
- (4) 臨床研修指導医は、研修医が作成した病歴要約により、経験すべき症候、疾病、病態に関する理解度について WPOC2 上で形成的評価を行う。
- (5) 上記評価の上、次のローテーションで何を学ぶべきかなど、目標達成の方向性を見出せるように省察の時間をもち、話し合いを行う。

4. 週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 午前 | カンファレンス 病棟研修 | カンファレンス 病棟研修 | カンファレンス 外来研修 | カンファレンス 外来研修 | カンファレンス 外来研修 |
| 午後 | 手術研修 | 手術研修 | 手術研修 | 手術研修 | 手術研修 |